



ホームランニュース

<http://www.funabashi-gakudou-baseball.jp>

発行 船橋市野球協会少年学童部

第二五回 船橋市長杯争奪 船橋市少年学童野球選手権大会

田喜野井ファイターズ ノーヒット・ノーランで 初優勝

夏季大会決勝戦は春季大会と同じ組み合わせ、田喜野井ファイターズと夏見台アタックスの戦いとなりました。

春季優勝の夏見台アタックスは全日本学童出場のため、また田喜野井ファイターズは日報林出場のため(ともに別掲)、決勝戦は八月二十九日と例年より半月ほど遅い日程となりました。

試合はアタックスの先攻で始まりましたが、一回の表は三者凡退、その裏ファイターズは一、二番が連続ヒット、一死後、守備のいいアタックスが珍しく内野ゴロをエラーし満塁に、五番竹内君のライト前ヒットで一点先制し、なお満塁。二死後、七番御山君がデッドボールを受け、初回到二得点をあげました。

アタックスは、四回ファイターズの投手交代の機に乗じ、四死球で二死満

第一八回 船橋市少年学童野球低学年大会

三山スワローズ逆転サヨナラで二度目の優勝

三山S	100236
さざんか	3002205

第一八回低学年大会の決勝戦が九月六日豊富球場A面で行われました。決勝戦は、前日の準決勝を勝ち抜いた、三山スワローズとさざんかポニーズの対戦となりました。

先攻のさざんかは初回、一死後佐藤大地君のセンターオーバールの二塁打を足掛りに相手の野選、エラーで幸先良く三点を先制しました。対する三山も一番吉岡君がライトへの二塁打、バッテリーエラーで三進後、内野ゴロ



の間に一点を返しました。二、三回はともに無得点でしたが、四回表、さざんかはツーアウトから九番谷君が左中間を破るタイムリー二塁打、二点を追加し五対一としました。その裏、三山もさざんかの守備の乱れから二点を返し、二点差に詰め寄りました。

五回表、さざんかは二番の佐藤君が二本目の二塁打で出塁したものの併殺もあり無得点。

二点を追う五回裏、三山は先頭の九番杉山君が三塁への強襲安打で出塁、二盗後、一番吉岡君のピッチャーゴロが野選を誘い、二番桜井君も粘って四球を選び無死満塁。続く平内君のセンター前のタイムリーで二点を還し同点に。一塁走者も三塁を狙ったが、捕手からの送球でアウトとなったが、四番中島君のレフトへのヒットで一、三塁に。打者多部田君への四球目、低めのボールを捕手がパスボール、三塁ランナー平内君がサヨナラのホームを踏



んでゲームセット。三山スワローズが第五回大会以来、一三年ぶりに優勝しました。惜しくも敗れたさざんかポニーズが準優勝、第三位は宮本ビーンズでした。優勝、準優勝の二チームは県低学年大会に出場します。

今大会から、低学年大会の規定が改定されたことに伴い、参加チームも三九チームに減少し、コールドゲームが全三六試合中五試合と前回(一一試合)と比べると大幅に減りました。また、決勝戦に同じように逆転サヨナラゲームが三試合あったのも今年の特徴と思われます。



第40回千葉県少年野球大会 (千葉日報杯争奪戦)								
No	チーム	支部	1回戦 8/7	2回戦 8/8	3回戦 8/11	準々決勝 8/14	準決勝 8/15	決勝 8/15
1	栄町ヤングジャイアンツ	印旛	横芝 7-5	横芝 4-2	横芝 4-4 (3-0)			
2	横芝フェニックス	九十九	横芝 6-1					
3	京葉スターズ	千葉	谷津 9-5					
4	谷津ジャガーズ	習志野	常盤平 6-4	常盤平 10-3				
5	大町パワース少年野球部	市川	常盤平 6-4					
6	常盤平ボーイズ	東葛	常盤平 6-4					
7	エースライオンズ	八千代	エース 不戦勝					
8	日野レイカーズ	北総	北総 6-1					
9	中国労務チーム	市川	辰巳 6-1	辰巳 6-6 (2-1)				
10	辰巳ハニーズ	市川	辰巳 6-1					
11	小中台ウイングス	千葉	南流 8-7					
12	南流ファイターズ	東葛	南流 8-7					
13	浦安ベイマリナーズ	東葛	浦安 12-4					
14	藤山ファイターズ	安房	藤山 12-4					
15	大穴ベガサス	船橋	船橋 13-11					
16	辰原BBM	九十九	辰原 4-2					
17	花見川ファイターズ	千葉	花見川 4-2					
18	野葉スポーツ少年団	東総	野葉 9-2					
19	山喜野井ファイターズ	船橋	山喜野井 14-2					
20	下川レッドスターズ	市川	下川 11-3					
21	岩根フェニックス	かずさ	岩根 11-3					
22	舞浜フェニックス	高野	舞浜 21-4					
23	高野台ジャガーズ	高野	高野台 21-4					
24	東新田ユニオンズ	東葛	東新田 7-0					
25	中部ユニオンズA	高野	中部 7-0					
26	吉野ボーイズ	かずさ	吉野 7-0					
27	野田ドンキーズ	東葛	野田 6-3					
28	高田ウィンスターズ	柏	高田 4-4					
29	八街マリナーズ	印旛	八街 4-4					
30	みつわ谷スラッガーズ	千葉	みつわ谷 3-2					
31	南高津クラブ	八千代	南高津 3-2					
32	ニューアースモス	北総	ニューアース 5-3					
33	サンズバッツ	高野	サンズ 11-3					
34	五井中央スポーツ少年団	市川	五井 11-3					
35	大野ボーイズA	市川	大野 11-3					
36	ツインドルフィンズ	市川	ツイン 11-2					
37	野山リトルエンジェルズ	安房	野山 6-0					
38	岩田ベアーズ	千葉	岩田 9-5					
39	並木ベシエンズ	北総	並木 9-4					
40	舞浜マリナーズ	九十九	舞浜 9-4					
41	八生ジャガーズ	北総	八生 7-6					
42	熊形スターズ	かずさ	熊形 7-0					
43	三山パワーズ	船橋	三山 9-1					
44	串崎スワローズ	東葛	串崎 4-4					
45	高谷野球部	市川	高谷 4-3					
46	平川ファイターズ	千葉	平川 4-3					
47	松葉ニューセラミックス	柏	松葉 7-4					
48	東総オーシャン	東総	東総 7-4					
49	富里Rエンゼルズ	印旛	富里 4-2					
50	臨海ちどりウイングス	市川	臨海 7-3					
51	佐倉ビクトリー	北総	佐倉 7-3					
52	臨海シークレット	習志野	臨海 12-5					
53	久等家エース	高野	久等家 12-5					
54	養老ファイヤーズ	市原	養老 6-3					
55	辰木ライオンズ	千葉	辰木 6-3					
56	松尾ブルーウイングス	九十九	松尾 4-3					
57	鶴岡サザンスターズ	北総	鶴岡 4-3					
58	ミヤコリトルベアーズ	千葉	ミヤコ 10-1					
59	初石クーガーズ	高野	初石 3-2					
60	南部少年野球クラブ	高野	南部 3-2					
61	子安クラブスポーツ少年団	かずさ	子安 8-2					
62	習志野エース	習志野	習志野 10-3					
63	酒々井ビッグアローズ	印旛	酒々井 5-4					
64	海上マリニック	東総	海上 5-4					

第四〇回千葉県少年野球大会 (日報杯)
船橋勢奮闘
田喜野井ファイターズ 準優勝
ツインドルフィンズ ベスト8

八月七日猛暑の中、千葉県少年野球大会(日報杯)が始まりました。船橋からは、田喜野井ファイターズ、ツインドルフィンズ、三山パワーズと、全日本学童出場のため、本大会の出場を辞退した夏見台アタックスに代わり大穴ベガサスの四チームが出場しました。

大穴ベガサス、三山パワーズは善戦したものの残念ながら一回戦で敗退しましたが、残る二チームは二回戦、三回戦を勝ち進み準々決勝に進出しました。

ツインドルフィンズは串崎スワローズと戦い、サドンデスまで持ち込みましたが、惜しくも敗れました。

ベスト8に終わりました。一方、田喜野井ファイターズは準々決勝を接戦で征し、最終日に駒を進めました。富里Rエンゼルズとの決勝戦で、先制したものの逆転され、最終回の攻撃も一点届かず、昨年の日ハム千葉県大会に続いての優勝はなりませんでした。

日報杯で船橋勢が決勝に進むのは、第三十三回大会(平成一五年)の高郷スターズ以来七年ぶりでした。

「ここからが本当の勝負」

夏見台アタックス主将 坂本 成海

全国大会を目指し始めたのは、僕達がまだ4年生だった夏、水戸で開かれた全国大会を見に行ったのがきっかけだった。その時僕は、自分達も6年生になったら、全国大会に出場して優勝したいと、強く心に思った。

その大会を見て、次の練習から、全国大会で優勝する思いを忘れずに、必死になって練習をした。5年生の春季大会決勝。この日は練習通りのプレーが出来ない試合で、優勝できずに終わってしまった。でも、この試合に負けた悔しさで、みんなの心がひとつになってきた。

6年生の春季大会決勝の相手は、またも5年生の時の決勝と同じチームだった。試合は延長戦で、9回表が終わった時点で1対1。9回裏に1点を取り、サヨナラ勝ちを収めた。

僕は、この大会での優勝が全国制覇のスタートだと思っている。県大会でも、何試合か苦しい試合もあったけれど、アタックスはピンチになっても100%の力が出せるチームになれたので、苦しい場面も乗り越えることができた。決勝戦は10対1のコールド勝ちで、全国大会への切符を手に入れた。

優勝できたのは、去年までは多かったエラーも、今年は少なくできたからだと思う。

そして、そうなるまでの、監督やコーチの教えや、周りの方たちの応援のおかげだと思います。

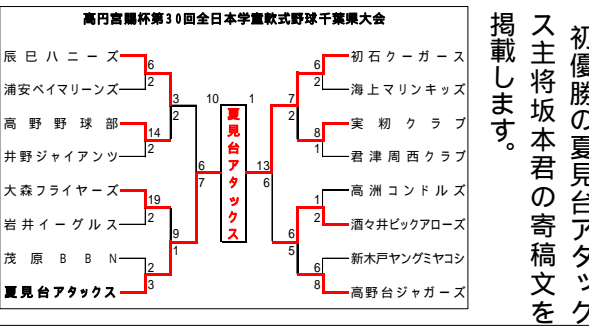
全国大会を勝ち抜くには、ここからが本当の勝負だと思う。大会までの残り少ない時間だけ少しでもレベルを上げる努力をし、自信を持って挑みたいです。

お母さんのおにぎりパワーとアタックス野球で全国制覇を目指します。

夏見台アタックス 全日本千葉県大会優勝

全日本学童軟式野球千葉県大会は、五月二二日から二九日の日程で行われ、船橋市から出場した夏見台アタックス(春季大会Aリーグ優勝)が、平成二〇年の習志野台ワnpakズ以来二年ぶりの優勝を飾り、八月に東京で行われる全日本大会の出場を決めました。

夏見台アタックスは、初出場だった昨年の第三位を上回り初優勝でした。また、船橋勢としては習志野サンデーズ、習志野台ワnpakズ、ホワイトビーストロングについて四番目の全国出場チームとなりました。





昨年から東京に会場を
移した、全日本学童に千
葉県代表として出場した、
夏見台アタックス飯山代
表からの出場報告を掲載
します
(紙面
の係
編集
)。

高円宮賜杯第30回全日本学童軟式大会マクドナルド・トーナメント出場報告

～熱闘の2時間30分 ベスト16に胸張って～

8月14日から19日まで、神宮球場などを中心に闘われた、高円宮賜杯第30回全日本学童軟式野球大会マクドナルド・トーナメントに千葉県626野球チームの代表として初の出場をはたし、3回戦で敗退し、ベスト16にとどまりましたが、選手たちの健闘は目を見張るものがありました。

15日から一回戦がスタート。我がチームは府中市民球場の第三試合、佐賀代表の肥前球友クラブが相手。午後からの試合ということで、午前中は立川市の多摩川沿いの市のグラウンドを地元チームを頼りに借りて頂きました。アップグラウンドの確保は県大会でも同様ですが、必須です。遠方の代表チームにとっては苦勞したことと思います。

試合展開は、初回、しっかり守りからリズムをつくるという、いつもの展開から入ることができ、その裏の攻撃で1点を先制しました。4回に同点にされましたが、ベンチには余裕がありました。すかさず、その裏に勝ち越したのがポイントとなり、残り3イニングをしっかりと守り抜きました。相手チームの監督が、私に「おたくのピッチャーは頭良か」と佐賀弁で一言残して球場を去っていきました。無四球完投は松本君にとって今期、最高のピッチングでした。

2回戦の球場は、人工芝の大田スタジアム。昼前の試合開始でしたが、グラウンド内は40度前後の暑さ、いかに守備の時間を短くするかも重要でした。対戦相手は二回戦から登場の青森代表のヤング五戸クラブ。攻撃は初回1点、3回2点、6回1点と効率よく得点できました。守ってはエース松本が打たせて取る投球にバックも好守でこたえてくれました。最終回、完封を意識したのか、先頭打者に四球を与え、連打で一点を献上しましたが、猛暑の中でも会心のゲームをしてくれました。これで、第一目標の神宮球場でプレーすることが叶いました。

3回戦の17日は、第五試合15時半開始予定。連日早朝6時すぎにバスで船橋を出発していましたが、この日は10時過ぎの出発で、中央区月島のグラウンドで練習をすませて球場入りしました。

ゲームはほぼ1時間遅れでスタート。この日も3回裏に1点を先制し、守っては坂本主将を中心に内野陣が好プレーで投手を盛りたてました。4回表に同点にされてからは、ともに膠着状態の展開になりました。薄暮から照明が入り審判も6人に。7回を終えて1対1の同点で、特別延長戦に入りました。

無死満塁のサドンデス、後攻の我がチームには有利と踏みました。8回はお互いに2点ずつ取り、9回に進みました。5年生の捕手は体力的に限界でした。投手の松本も気力の投球が続きます。ベンチではいつでも交代できるように、二番手投手の準備はすすめていましたが、エースの自覚なのでしょうか「行きます」と中井監督に答えていました。しかし、守備のミスから5点を奪われ、裏の攻撃に入りました。「お前たちなら絶対返せる」監督の檄が飛びました。県大会での苦しい試合を勝ち抜いてきた選手たちを信じていた、監督の確信だったと思います。追い込まれても必死の反撃から4点返し、一打出ればサヨナラという局面で、万事休してしまいました。

2時間30分におよぶ「熱闘神宮」は、悔しさ半分、感動半分の複雑なピリオドでした。今大会の全51試合で延長戦は、唯一この試合だけでした。正直、選手たちの健康管理の面からは厳しい状況でした。そのなかで、こん身の力を振り絞ってプレーしてくれた選手達を誇らしく思い、涙が止まりませんでした。相手の三重代表の菰野野球少年団監督も「素晴らしいゲームでした」と感極まっていたのが印象的でした。

3日間の戦いでしたが、初出場のハンデをカバーしてくれたのは応援でした。初戦には、選手の家族はもとより、遠方から大勢の祖父母や親族が駆けつけ、本来なら大会でベンチ入りしていただろう、転校していった二人の選手が、家族で大阪、埼玉から応援に来てくれ、アタックスのユニホームを着て、試合前の練習にも参加してくれました。また、卒団生の高校三年生や中学三年生の球児たちが大会中の練習の手伝いを積極的に買って出ってくれました。

学童部の壮行会で選手たちが掲げた「全国制覇」は実現できませんでしたが、船橋市、市野球協会、学童部をはじめ市内のチームのご支援には、改めて感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。

チームの代表の任をまかされて一年目で「素晴らしい夏休み」をプレゼントしてくれた子供たちにも感謝です。

夏見台アタックス代表 飯山 博之

第二四回 春季市民大会



台アタックスと、田喜野井ファイターズの対戦となりました。

田喜野井ファイターズは昨年の日ハム杯千葉県大会を圧倒的な強さで優勝した勢いで、準決勝までの戦いを二回戦以外コールドで勝ち上がりました。一方夏見台アタックスもここまで危なげなく勝ち上がってきました。

試合は一回の表、先攻の田喜野井ファイターズ一番打者、古島君がいきなりレフトオーバーの三塁打、続く石田さんが手堅くスクイズを決め、先制しました。

対するアタックスも二回の裏に先頭打者の五番後藤君が、センターオーバーの三塁打で出塁、次打者の一塁へのゴロで本塁に突入しますが、ファイ

君が投手前に高いバウンドのゴロを放ち、その間に松本君が生還し同点に追いつきました。その後は両チームの投手が好投無得点に抑え、七回終了時に一対一の同点のため規定により、延長戦に入りました。

八回は両チーム、無得点。九回の表、ファイターズは四球と内野安打で一死二、三塁とチャンスを迎えますが、後続が絶たれ無得点、このままサードネスに入るかと思われましたが、アタックスはこの回先頭の後藤君がこの日二本目となる長打で、二塁に。次打者の送りバントで一死三塁、渡部君の

高いバウンドのピッチャーゴロの間に三塁ランナー後藤君がサヨナラのホームを踏み、劇的な勝利を収め、二連覇を達成しました。二時間を越えるゲームでしたが、時間を感じさせない好ゲームでした。

優勝したアタックスは五月二二日から始まる、全日本学童千葉県大会に、惜しくも準優勝の田喜野井ファイターズは七月に行われた関東学童千葉県大会に出場しました。また、両チームは第三位に

なったツインドルフィンズ、三山パワーズとともに千葉日報杯へ出場しました。(別掲)



Bリーグは西部支部西船ウイングスが初優勝

西船W	0	2	3	1	3	0	1
習志野S	0	0	0	0	0	0	1
	0	0	0	0	0	1	0
	1						10

春季大会のBリーグ決勝戦は、準決勝で法典コンドルを二対五で破つた西船ウイングスと、みゆきファルコンズを三

対六で下した習志野サンデーズの対戦となりました。初回はともにランナーを出しながら無得点に終わりましたが、二回の表、西船は二死後、四球を足掛りに一番打者中林君の右中間への三塁打で二点を先制、その後も打線が爆発し、相手のエラーもあり、着々と加点しました。

対する習志野サンデーズは西船の投手を打ちあぐね六回に反撃したものの一点どまり、最終回にも一点を加えた西船ウイングスが十対一と大差で勝利し、初優勝をかざりました。

千葉県大会の出場を決めました。また、本大会ベスト4のチームは今年度から始まる、東部鉄道杯野田線大会の出場が決まりました。

なお、西部支部所属チームが学童部の大会で優勝したのは今回が初めてとなります。



優勝した西船ウイングスは秋に行われる関東学童秋季大会(日ハム杯)



Aリーグ夏見台アタックス二連覇

田喜野井F	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
夏見台A	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	2									1

Aリーグの決勝は、準決勝とともにコールドゲームで勝ち抜いた夏見

春季大会の決勝戦は、ゴールデンウィークの五月三日、夏見運動公園の市民球場で行われました。今年の連休中は天気恵まれ、天候不順の四月とは違って、雨の心配はありませんでしたが、午後からは強風のためAリーグの決勝戦は時折砂埃の舞う中での戦いとなりました。

第四三回少年少女交歓大会 読売さわやか野球教室



第四三回船橋市少年少女交歓大会は五月九日、五月晴れの運動公園で開催されました。

今年は千葉国体の開催があるため、国体キャラクターのチーバ君が参加して炉火(聖火)の採火式も行われました。

学童部では四〇回記念以来恒例となった「読売さわやか野球教室」を京



葉読売会船橋東西支部の協力を得て、野球場で実施しました。
今回の講師は上田武司、山本功児、鹿取義隆、橋本清の四氏で、記念写真撮影後、投手はブルペン、野手はグラウンド内に分かれてそれぞれ熱心な指導を受けました。



閉会式では、講師を代表して上田コーチから「野球は基本が大事、練習も基本をしつかりやること」と好評がありました。最後に受講者を代表して夏見台アタクスの渡辺君が元気良くお礼の言葉をのべ、野球教室は終了しました。
今回特別参加のジャビッツ君とハイタッチをしながらの退場となり、参加の受講生たちは大喜びでした。



二二年度卒業生の部活について アンケートの集計結果

先般、各チームにお願いでいた「卒業生の中学でのクラブ活動」についてのアンケートの結果がまとまりましたので、報告します。なお、三五チームから回答がありました。

野球部がトップ
二二年度に中学生になったOB・OGは三六二名(内女子は十名)でした。入部したクラブは圧倒的に野球関係が多く二六一人で全体の七二%を占めています。そのうち中学校の野球部への入部は二二五名(うち女子一人)で、回答のあった三五チーム全チームの卒業生が入部しています。

部しています。また、シニア等の硬式野球クラブには、一七チームの三六名が入っています。

女子選手

今回特に設問には設けなかったのですが、女子四名が中学のソフトボール部に入部しているとの回答があり、ソフトボールが女子選手の受け入れ先となってきています。また、先日全日本女子軟式野球選手権大会で二年ぶり二度目の全国優勝を果たした、千葉マリィンスターズに高郷OGの松岡さんが所属しています。

卒業生の人数		362	
男子		352	
女子		10	
部活の状況			
中学校の野球部	225	62%	
男子	224		
女子	1		
中学校のソフトボール部	4		
男子	0		
女子	4	(40%)	
シニア等のクラブチーム	37	10%	
男子	36		
女子	1		
その他のクラブ	93		
男子	89		
女子	4		
不明	3		

一死満塁

暑い!とにかく暑い日が続きました。猛暑日が観測史上最高とか、雨もいつ降ったのかと思うほど降らなかつたため、大会運営はスムーズだったのですが、「熱中症」が心配でした。これが皆様のお目にかかるときには多少涼しくなっていることを期待しています。

暑かったからという訳ではないのですが、ホームランニュースも発行する時期が判らなくなってしまう、また、船橋のチームの活躍で一一号の紙面は盛りだくさんになってしまいました。

また、掲載しきれなかった事項もいくつかあるのですが、それは次号に(発行はいつ頃でしょうか?)回したいと思います。

今後も新人大会、秋季大会、支部対抗等々開催されます。HPの方が情報が早いですが、こちらにも頑張ってみようと思います。

今回から、支部持ち回りで各支部の情報等のページを作ってみました。一回目は東部支部の情報でした。次号は西部支部から寄稿してもらおう予定です。お楽しみにしてください。

支部情報のページ

東部支部の一年間

東部支部は、一七球団が所属する船橋の支部で一番球団数の多い支部です。また、過去に千葉県代表として全国大会に出場した球団(習志野台ワンバクズ2回、習志野サンデーズ2回、ホワイトビーストロング1回)が所属する支部でもあります。このような東部支部の一年をご紹介します。

一月中旬、習志野飯店にて恒例の新年会・総会が催され、新たな一年が始まります。

三月中旬、代表者会議・教育リーグの抽選会を行い本格的に始動します。

教育リーグとは、六年生の大会に向けて、選手と指導者・審判を育てることを目的としたリーグです。五年生、四年生が二つのリーグに別れ順位を決めます。十一月下旬の東部支部閉会式の際に五年生の決勝戦を行います。

五月初旬〜六月初旬に北部支部と合同で、東警

察署長杯を行います。打倒「北部」に燃える大会です。

八月中旬、秋の大会に向け代表者会議と抽選会が行われます。

九月初旬〜秋季大会東部支部予選が始まります。東部支部からは六チームが中央大会に出場(ベスト4と敗者復活の二チーム)します。

十月中旬〜十一月末にFCC大会(ナイガイ杯ファイナルチャンピオンカップ)が開催されます。東部支部最強のチームを決定する大会です。

十一月下旬に、六年生・五年生のオールスター戦、FCC大会・五年生教育リーグの決勝戦、閉会式および表彰式が行われます。これで、一年が終わる。しばらく休息の時を迎えます。

東部支部では、一つのチームで六年生の大会すべてを優勝することがたいへん難しく、各チームがまさにしのぎを削る戦

いを繰り広げています。今後とも、支部一丸となつて全国大会を目指し頑張つて行きたいと思ひます。

栄冠を呼び寄せたチームワーク

西習志野グリーンファイター

監督・大谷 康二



野球は、ツアアウトからと良くいいますが本当でした。

直前の春季大会では、五年生を加えて総力戦で戦う事を誓ったチーム事情ではありましたが、春季大会・県大会を制した夏見台アタククスさんに実力差を見せ付けられ、早々に残念な結果に終わってしまいました。

この結果を踏まえて、もう一度チーム全体の建直しを強いられ、もがいてみました。そこで、チームとしては、今できる事、今やらなければならぬ事を選手達、皆平等にもう一度必死に取り組みました。

春季大会敗戦のくやしさを胸に、プライドを持った六年生と挑戦する五年生がチームの勝利のために協力し合つて見事にコラボし、想像を超えるチームワークを選手達の間で自然と作り上げていったような気がします。

船橋東警察署長杯の開幕以降、選手達の中にはいつの間にか大人が入れない程の「総和」が生まれ、緊張するのもし緒、失敗して泣くのも一緒、勝利を喜ぶのも一緒と学

年を超えた友情とチームワークを短期間の間に作り上げていました。

田喜野井ファイターズとの決勝戦。1点リードされて最終回ツアアウトランナーなし。誰もが相手の勝利を確信し、ゲームセットまで、あと一人、あと一球にまで追い込まれてからの大逆転劇。やるうと思つて出来る事ではありません。ミラクルでした。

深紅の優勝旗と大きな優勝カップを手にした選手達は、満面の笑みで「優勝しちゃった」と言う表情にも見えませんでした。選手達のチームメイトを信じ、最後の一球まで絶対にあきらめない大きな声とチームの一体感こそが、栄冠につながったものと思ひます。

今回の優勝は、チームにとつて八年ぶりの事ではありましたが、選手達が成し遂げた事は、優勝ではなく最後まで仲間を信じあきらめない事だつたと私は強く思ひます。(支部情報の一環として船橋東警察署長杯優勝の西習志野GF監督からの寄稿を掲載しました。)